

4. 交流拠点施設及び周辺地域の現状・課題

- 本町における交流拠点施設及び周辺地域の現状や課題を把握するため、平成28年7月21～22日にかけて、越知山を除く6つの交流拠点施設の管理運営主体に対してヒアリング調査を実施し、各施設の概要や現状・課題、再整備や施設間連携の方向性などについて意見を収集しました。
- また、平成28年6月に「越前町交流拠点施設再整備検討委員会」の委員及び「越前町交流拠点施設再整備検討ワーキンググループ」の職員に対してアンケート調査を実施し、町内の観光・交流の活性化や交流拠点施設の再整備に向けた意見を収集しました（回収数：38票）。
- これらの調査結果から、本町における観光施策の課題は、次の3点に集約することができます。

【課題1】交流拠点施設及び周辺地域におけるハード面の対応

- ・アンケート結果では、観光立町に必要な方策として「既存資源の整備・活用」や「新たな観光拠点づくり」をキーワードとする意見が多く、各交流拠点施設に対してもハード面の整備の要望がみられます。また、各施設に対しても施設や周辺環境の再整備を望む意見が多くみられます。
- ・ヒアリング結果では、ほとんどの交流拠点施設が平成初期に建設・整備されたものであり、設備の老朽化による更新・再整備の必要性が指摘されています。また、劔神社周辺地域においては、旧市街地の活力低下が顕著であり、町並みの保全・整備や活性化が求められています。
- ・これらのことから、観光・交流を促進していくための課題として、交流拠点施設やその周辺地域の再整備が不可欠であり、限りある町の財源や民間活力を駆使しながら、ハード面での交流拠点整備を進めていく必要があります。

【課題2】本町のブランド力と観光客の満足度を高めるためのソフト面の対応

- ・アンケート結果では、観光立町に必要な方策として「PR・誘客の強化」や「越前町ブランド・イメージの創出」の観点での意見が多くみられるほか、「観光ルート・過ごし方の提案」や「町民の意識改革」といった観光客のおもてなしの向上に関する指摘がみられます。
- ・ヒアリング結果では、施設の管理運営体制や予算措置等の問題から、既存施設の維持管理に手一杯の状況であり、外国人を含む観光客の誘客やおもてなしに関する新たな企画・取組を展開できる状態ではない現状がうかがえます。
- ・これらのことから、ハード面の整備・充実だけではなく、すでに多様な観光資源を有している本町においては、むしろソフト面での複合的な施策が不可欠であり、町民や産学官金の連携のもと、本町のブランド力や観光客の満足度を高めるための対応を具体化していく必要があります。

【課題3】交流拠点施設及び周辺地域へのアクセスや回遊性向上への対応

- ・アンケート結果では、交流拠点施設を回遊してもらうための方策として「交通の利便性向上」や「観光コースの提案」、「案内の強化」に関する意見が多くみられます。また、各施設に対しても案内板の整備や道路の整備、駐車場の改善などの意見がみられます。
- ・ヒアリング結果では、町外から公共交通でアクセスしにくい点や、町内の各施設を回遊するための交通手段の不足、アクセス道路の整備の不足、案内サインの不足などが指摘されています。
- ・これらのことから、交流拠点施設やその周辺地域の魅力を高めるだけでなく、それらへのアクセシビリティや回遊性を高める必要があります。